

よし 笛田

島の玄関口である沖島

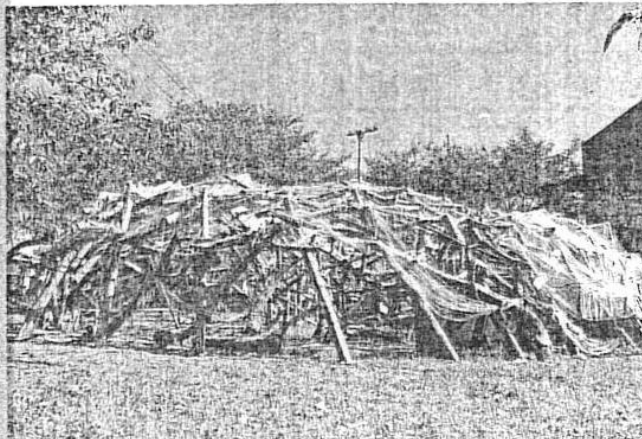
漁協の建物を曲がると、流木で組まれた大きな構造体が見えてきます。滋賀県立大の菅澤竜一先生と学生有志のみなさんが、島の要望と活性化という課題解決のために当協議会と共同制作してくれました。「RYUBOKU HUT HUT（リュウボクハット）」とは流木できた小屋の意味で、「人が集うように」という思

沖島の新しい名所



本多 有美子

間2万人ほどが訪れるようになり、みんなが休憩できる場所が欲しいと島のお母さんたちから声が上がりました。ですが、費用や条件面で非常に難



滋賀県立大生と沖島の住民で製作した「RYUBOKU HUT」

「ここにしかないもの」をコンセプトに2年がかりで今秋完成しました。流木の結合には漁師の縄の結び方を利用しました。重機などは島に運

べないので、すべて地道な手作業の繰り返しでした。また、流木を1本ずつ計測し、強度計算をするのも非常に時間のかかることだったと思います。大学の長期休暇中に島に泊まり込み、暑い夏も寒い冬も黙々と作業し、合間には島の行事やごみ出しのお手伝いなどを、すてきな笑顔でそつなくこなす姿に感動さえ覚えました。自分の学生時代を振り返るとあまりの違いに反省しきりです。

この「沖島休憩所」は芸術作品のようにデザイン性にも優れ、新たな人気スポットになり、ゆっくり腰かけて五感で沖島を感じてもらえ、にぎわいを生むすてきな場所になるでしょう。11月3日には、ここで湖魚まつりを開催します。島内外の人にお披露目できるイベントです。いろいろなお店が出ますのでみなさんお誘い合わせの上、お越しください。ね。最後にになりましたが菅澤竜一先生、陶器浩一先生、学生グループの前代表石田知弘さん、現代表幸永幹真さん、そして関わったすべての学生のみなさん、ありがとうございました。またもって（帰って）来てくださいね。（沖島町離島振興推進協議会会長）

いが込められています。沖島に観光者が訪れるようになったのはごく最近のことで、今までベンチなどはわずかしかなかった。近年は年

しく、実現できないままでした。そんな時、5月5日にこの欄で紹介した民泊施設の改修で知り合った建築家を志す県立大の学生

さんに委託できないかと菅澤先生に話したところ、快く引き受けてもらえました。漁師網やひも、流木や貝殻など島の素材を使い

また、流木を1本ずつ計測し、強度計算をするのも非常に時間のかかることだったと思います。大学の長期休暇中に島に泊まり込み、暑い夏も寒い冬も黙々と作業し、合間には島の行事やごみ出しのお手伝いなどを、すてきな笑顔でそつなくこなす姿に感動さえ覚えました。自分の学生時代を振り返るとあまりの違いに反省しきりです。

最後にになりましたが菅澤竜一先生、陶器浩一先生、学生グループの前代表石田知弘さん、現代表幸永幹真さん、そして関わったすべての学生のみなさん、ありがとうございました。またもって（帰って）来てくださいね。（沖島町離島振興推進協議会会長）